

6学年保護者 様

古牧小学校

全国学力・学習状況調査からみる本校6学年の児童の傾向と改善の方向について

本年4月22日に6学年を対象に全国一斉に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果を受けて、本校の傾向と改善の方向についてお知らせします。

この調査の目的は、「義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の結果と課題を検証し、その改善を図るとともに学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。」ことにあります。公表に当たっては、「調査により測定できるのは学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であること」などを踏まえた上で、調査結果の分析に基づいた本校の傾向を示し、日々の教育活動や今後の具体的な取組について検討して改善に役立てたいと考えています。

1 《国語》※「領域別」に分析しています。

(全国との比較で◇は良かったところ◆は課題のあったところを表しています。)

(A表示は、A問題から、B表示はB問題からの分析です。)

【話すこと・聞くこと】について

◆(B)「司会の発言内容をまとめて書く」については、32.2%の正答率で課題があることが分かりました。話し手の考えを要点的に聞くことを普段の授業から行い、話し手の考えたことなどを整理できるようにする指導を大切にしていきます。

【書く事】について

◇◆(B)「メモの内容を関連づけて、相手の疑問を書く」については、71.9%と正答率が高かったです。「発言に対して質問か意見を書く」については、正答率が、28.1%と下がり、課題があることが分かりました。相手と自分の考えとを比べながら聞く事を重視し、共通点や相違点、関連して考えたことなどを整理して、自分の考えをまとめられるようにする指導を大切にしていきます。

【読むこと】

◇全体として「読むこと」については、確実な学習ができています。問題によっては、約30%が正答できていないものもあります。段落ごとのつながりや接続語の使い方などに着目しながら文章を読み取る学習をしていきます。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

◇◆(A)「漢字の読み書き」については、相当数の児童ができており、日頃の家庭学習の成果が表れていると判断しています。「ことわざの意味理解」の正答率が43.8%と下がり、課題があることが分かりました。「ことわざ」について正しい意味が理解できるように指導していきます。

2 《算数》 ※「A問題、B問題別」に分析しています。

【算数A】 〈主として知識に関わる問題〉

◇ $46 + 57$ の正答率が99.0%、 $100 - 20 \times 4$ の正答率が92.7%と、他の整数の計算の正答率から見ても、理解が良好です。また、直径6cmの円の円周を求める問題でも正答率が92.7%と、円周率が円周の直径に対する割合であり、それをを用いて解答を出す問題についての理解も良好です。

◆80cmの0.4倍に当たる長さの式を求める問題では、正答率が55.2%でした。基準量と比較量の大きさの関係を問う問題ですが、割合の意味を理解することに多くの児童に課題があります。日頃の授業で数直線や図などで数量の関係を示すなどして、比較的容易な段階から割合について数量関係を捉えられるように進めていきます。

コンパスを使った平行四辺形のかき方について、用いられている平行四辺形の特徴を選ぶ問題では、正答率が54.2%でした。図形の授業では、作図の手順を理解しその作図が図形のどのような約束や性質を使っているのかを考えながら作図できるような支援を心がけていきます。

【算数B】 〈主として活用に関わる問題〉

- ◇示された計算を基に、異なる数値の場合でも工夫して計算する問題の正答率は99.0%で、計算の結果を見積もったり、見積もった計算の結果を確かめたりする力は伸びています。
- ◆示された情報を基に量の大小を判断し、その判断の理由を数学的に表現する問題の正答率は24.0%、無答率は33.3%でした。全国平均同様の傾向ですが、判断の理由を言葉と数や式を用いて根拠を明確にして説明する力はつけたいものです。日々の授業の中で、解決の視点やアイデアを明確にし、図や式を使って説明する内容として何が不足しているかについて考えるなど数学的な考え方の力を伸ばしたいと考えています。

☆学力調査問題に取り組む姿勢として、本校児童は国語も算数も無答率が低く、課題に対して自らの力で解決していこうという意欲をもつ児童が多いことが分かりました。自らの力を高めたいとする学びに対する姿勢が育ってきていることが分かり大変うれしい姿です。

3【児童質問紙からの傾向について】

生活・学習意欲・学習環境・学習方法の諸側面に関して、「自尊感情、地域への参加、算数への関心」については全国平均より高く、「生活習慣、学習習慣、読書や国語への関心」については全国平均よりやや低くなっています。

主な傾向として

- ◇自尊感情が高く、難しい事にも意欲的にチャレンジしていこうとする気持ちをもっています。
- ◇友だちとの関わりを大切にし、みんなで作り上げることに喜びを感じている子が多くいます。
- ◇家族との会話が長く、地域のことに関心をもち、行事に積極的に参加しています。
- ◆家庭学習の習慣はついてきていますが、学習時間が短い傾向にあります。
- ◆テレビゲームを一日1時間以上する児童が2/3程度います。
テレビやビデオ・DVDを見る時間が一日4時間以上の児童が1/4程度います。
これらは、全国平均を上回っています。
- ◆寝る時刻が不規則な児童が3割ほどみられ、全校平均を上回っています。

本校の児童は、地域や学校において自分の良さを発揮したり、活躍の場を得たりして、自らを高めたいと願う意欲をもつ児童が多いと思います。さらに、一人一人の生活や学習の仕方を見直して改善していくことが、学力向上とともに健全な育ちにつながっていくと思います。一層学校とご家庭との連携を取り合って生きたいと思います。

以上のように、この調査から見える成果や課題をしっかりと受け止め、指導・支援の充実を図り、確かな学力向上に努めて参りたいと思います。また、ご家庭においても、生活習慣や学習環境、家庭学習のあり方についてさらなる改善に向けて、ご理解とご協力をお願いいたします。